

清水亮 成年男子 500m 激戦制す

少年I H 4強ならず

スピード

八戸市の長根公園スケートリンクが昇勢のメダルラッシュに沸いた。第59回「活彩はやて国体10th」は3

日目の30日、スピードスケート成年男子500mで清水亮平(吉田産業)が優勝、少年男子500mでも松尾和明(八商)が2位に入った。少年・成年短距離両エースの期待通りの活躍に、リンクサイドからは大きな拍手

が送られた。

清水はスタート直後から

2番手の好位置に付けると、最終コーナー付近でトップに立ってそのままゴール、ワールドカップ(W杯)日本代表の実力を見せた。松尾は後半のホームストレートでぐんぐん加速、トップとわずかの差で2位に入った。少年男子一万mの柏崎藤太(八商)は5位、高橋丈博(同)も7位に入った。

が優勝候補の北海道と対戦14で敗れたが、最後まで闘志あふれるプレーを見せ、会場を沸かせた。

本県は地元の大らかな声援を受けて第2ピリオド開始29秒、高橋(工大一)からパスを受けた佐々木(工大一)がゴールを決めて先制した。しかし、2分半すぎに同点に追いつかれると、18分44秒には逆転を許した。最終ピリオドにも追加点を奪われたが、中居(藤

福地村のふくちアイスアリーナで行われたアイスホッケー少年準々決勝は、本県

アイスホッケー

覚)、高橋らが敵ゴール前まで攻め込み、積極的な攻撃を展開。強豪を相手に善戦した。



「スピードスケート成年男子500m決勝」スタートから勢いよく飛び出し優勝した清水亮平(吉田産業)

少年 準々決勝

北海道 4
220
010
1 青森

